

馬込時代の宇野千代
株式会社宇野千代提供



宇野千代
没後30年

宇野千代の

華麗なる世界



仕事に恋に奔放に生きた作家の宇野千代。彼女の馬込在住は短期間でしたが、後の創作における基礎を築いた貴重な日々であり、作家仲間との交流は後々にまで続いていきました。そんな馬込時代の交流の諸相を彼女の代表作や編集・発行した雑誌等とともに紹介します。

令和8年 (2026年) 9月5日 土

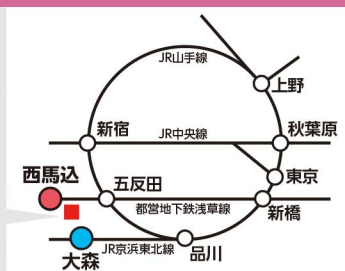
11月29日 日

開館時間：午前9時～午後5時

休館日：月曜日 (ただし、休・祝日の場合は開館し、振替休館はしません)

9月14(月)・15(火)

観覧料
無料



交通案内

都営地下鉄浅草線
「西馬込駅」東口から徒歩7分

JR京浜東北線

「大森駅」北口改札から東急バス4番乗り場で
「荏原町駅入口」行に乗り、「万福寺前」下車徒歩2分

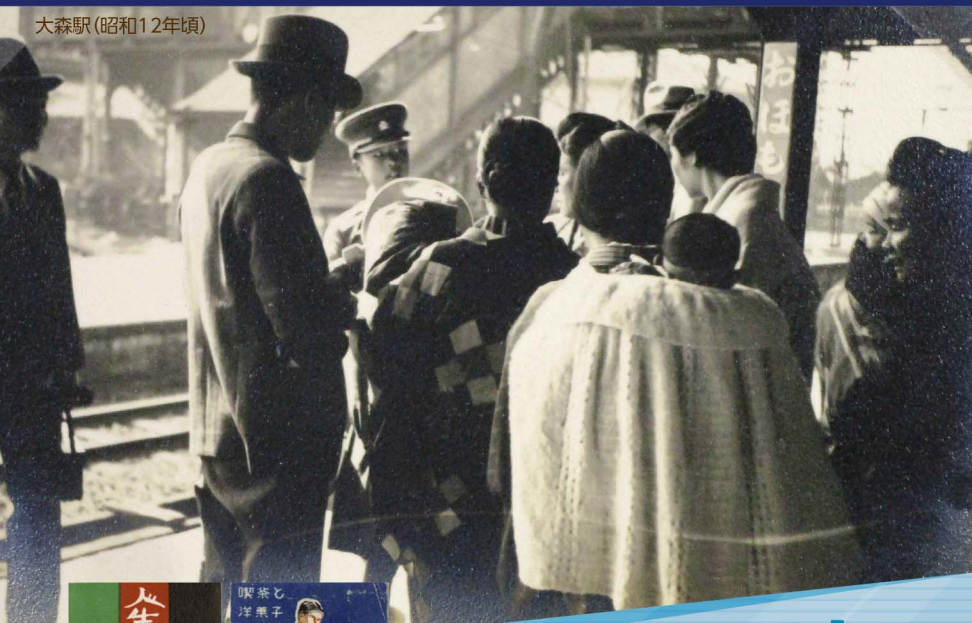


大田区立郷土博物館
Ota City Folk Museum

〒143-0025 大田区南馬込五丁目11番13号

TEL 03-3777-1070 FAX 03-3777-1283

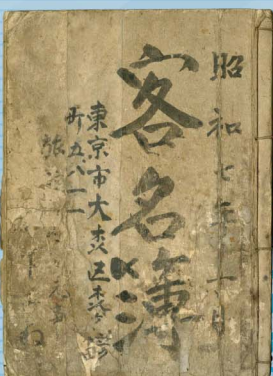
大森駅(昭和12年頃)



馬込から大森へ 大森から 海浜行楽地へ



▲不二家菓子店 マッチラベル(昭和戦前期)
石田晃浩氏蔵



▲楽々 マッチラベル(昭和戦前期)
石田晃浩氏蔵



▲澤田屋 マッチラベル(昭和戦前期)
石田晃浩氏蔵

▲寿々元「客名簿」(昭和7年1月)

馬込文士村の時代、大森駅とその周辺は繁華街として大いに賑わい、大森・森ヶ崎の海岸地帯は旅館や料理屋が建ち並ぶ行楽地として開発が進みました。作家仲間らは大森駅周辺やさらに足を延ばして大森・森ヶ崎の海浜行楽地へと連れ立って出向き、交流や創作活動を深めたのです。残された作家や画家の作品等から、その頃の風景や思い出を振り返ります。

令和8年(2026年) 9月5日 土

11月29日 日

開館時間：午前9時～午後5時

休館日：月曜日(ただし、休・祝日の場合は開館し、振替休館はしない)

9月14(月)・15日(火)

観覧料
無料

会期中の催事

1 まち歩き

宇野千代・尾崎士郎とその仲間たちの暮らしを垣間見ながら馬込文士村を散策します。

10月17日 土

- 時間：午後1時～4時 ■対象：どなたでも
- 定員：先着30名 ■参加費：300円(保険料含む)
- 申込方法：9月15日(火)午前8時30分より郷土博物館へ電話で申込み。
- 協力団体：馬込文士村ガイドの会

2 学芸員講座・見どころ解説

笑いに充ちた馬込文士村を講座で振り返り、宇野千代の作品と交流を展示解説します。

① 10月24日 土

② 11月21日 土

- 時間：各回とも午後1時30分～3時30分
- 対象：どなたでも ■定員：各回先着15名
- 参加費：無料
- 申込方法：①②ともに10月10日(土)午前8時30分より郷土博物館へ電話で申込み。

3 赤ちゃんと一緒に博物館へ

展示解説と「ねんじっこお話の会」による絵本の読み聞かせや手遊びを行います。

11月5日 木

- 時間：午前10時～11時30分
- 対象：0～2歳未満の乳幼児と保護者
- 定員：先着8組 ■参加費：無料
- 申込方法：10月15日(木)午前8時30分より郷土博物館へ電話で申込み。



大田区立郷土博物館
Ota City Folk Museum

〒143-0025 大田区南馬込五丁目11番13号
TEL 03-3777-1070 FAX 03-3777-1283